

2026年3月11日(日) 13:00~14:00

社会福祉法人 県央福祉会 ライム

## 2025年度 地域連携推進会議議事録

参加者： 利用者様、利用者家族様、地域の関係者様、  
ばあとなあ神奈川 志賀様（福祉に知見のある人）、  
ケアイノベーション相模原 井上様（経営に知見のある人）、  
社会福祉法人 県央福祉会ライム 管理者 三浦  
社会福祉法人 県央福祉会ライム サービス管理責任者 片岡

### 議題

#### 事業所紹介

構成員：施設職員、家族、利用者、福祉を熟知している方、関係機関、地域住民を  
令和7年度から共同生活援助で義務化されている。

行わない場合は第三者評価を受審し、認証を受けた場合は1年間免除である。

障害支援区分：区分6 10名 区分5 5名 区分4 4名

年齢：最年長 88歳 最年少 38歳

職員：19名

出身地：横浜市、海老名市、座間市、相模原市

利用率：ほぼ100%であり、帰省する方はほとんどいない。入院をする方がいるため、  
100%ではない。

職員会議を月に一度実施し、虐待防止研修：3ヵ月に1回、身体拘束適正化研修：年  
2回行っている。

感染症の防止対策：年2回行っている。

救命救急講習：年2回行っている。

避難訓練：年2回行っている。

○施設が20年経過したので、集合排水管の高圧洗浄、防水シートの貼り換え工事、  
電灯のLEDへの交換、キッチンの換気扇の交換、コンクリートの壁に亀裂が入り壁  
紙が破れたので貼り換え等、大家と金銭面での相談をしながら対応している。

道路拡張でライム駐車場一部の土地が対象となっているので、何年か後に駐車場ス  
ペースが減る予定である。

#### 利用者様日常生活状況・ヒヤリハット

○日常生活上の相談、排泄、入浴、食事等支援を行っている。

主な支援内容は食事提供、起床介助、就寝介助、障害サービス受給者更新等の手続き

等が中心である。

夜間の支援体制はライムでは男性 1名 女性 1名配置である。

日中は、デイサービスを利用、居室で日常生活上の支援を受けている。

病気や事故等で日常生活上動作は変化していく為、定期的な見直しと適切なサポートをしている。

日常生活を過ごしている中で、業務中に危険な事態が発生したものの、幸い大きな事故にはならなかった事象でヒヤリハットを作成している。

今年度のヒヤリハット件数は 39 件。内容は転倒、服薬関連が中心である。

## BCP 計画（業務継続計画）

○業務継続計画は、2024 年 4 月より義務化されている。

感染症や大地震などの災害が発生すると、通常通りに業務を実施することが困難となる。まず、業務を中断させないように準備するとともに、中断した場合でも優先業務を実施するため、あらかじめ検討した方針、体制、手順等を示した計画のことである。事業所では感染症と防災用の計画を作成している。災害用の備蓄品を確保している。備蓄品を備えているものの実際に対処をすることが出来るのか課題である。

## 事業所の経営状況

○収支余実対比表

事業活動収入の報告

事業活動支出の報告

事業活動資金収入差額報告

・ライムの事業単体では 90 万円程のマイナスである。

・経営を改善するためには、報酬単価を上げるには、利用者様の区分が上がる、利用率を上げる等であり、ライムが企業努力としてできることは、ヘルパーがやっている居宅介護部分をライムの職員が行うことで減算を削減することである。

これを継続して行うことで、赤字改善を徐々にやっていく

・ホーム入居者がヘルパー制度を利用できるのは、福祉ホームから制度が変わってから特例として、3 年ごとの延長が認められているからである。いつかはこの特例がなくなることを想定して運営する必要がある。今年の報酬改定では、1 日 8 時間ヘルパーを利用した方は、更に 5%の減算となることになった。

今度の報酬改定ではその時間制限が短くなるかもしれない、対応が求められる。

・ホームの中長期の課題・・・ホームで賄うことが出来る様にする。

最低賃金が毎年上がるため人件費上昇への対応をする必要がある。

安定したシフトや人員配置を行う必要があるが、求人募集をしても応募が少ない。

ヘルパーの高齢化もあり、訪問介護事業所も人手不足であり頼ることは難しい。

このように状態が福祉分野全体の課題で非常に心配である。

処遇改善加算があってもギリギリ経営出来る状況である。